

平成31年2月15日(金)
岡谷市基本構想審議会

第9回岡谷市基本構想審議会

会 議 録

【出席者】

○委員(9名)

太田博久 委員、太田深穂 委員、小口泰史 委員、小林妙子 委員、齋藤博子委員、
中村進 委員、中村文明 委員、山崎舜次 委員、横内文雄 委員

(※欠席者…今井誠 委員、笠原新太郎 委員、上沼隆弘 委員、唐澤剛 委員、
薩摩建 委員、高見澤恒子 委員、武田彰 委員、中畑聖二郎 委員、
中山昇 委員、新田隆史 委員、林幸夫 委員 以上11名)

(まち・ひと・しごと創生推進室)

企画政策部長	岩垂俊男
企画課長	岡本典幸
企画課主幹	宮坂征憲
同	味澤勝一
同	清水 亮
同主事	水澤優馬

第9回岡谷市基本構想審議会 会議録

平成31年2月15日（金）
午後1時30分～午後3時00分
市役所8階全員協議会室

1 開会

市民憲章唱和

2 企画政策部長あいさつ

3 議事

(1) 岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成29年度の効果検証について

企画課長	それではこれより会議事項に入る。 審議会の会議は、会長が議長となることとなっているが、本日の会議事項については、岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証に関わる内容であるため、事務局にて進めさせていただく。なお、その旨会長より了承をいただいている。
企画課主幹	それでは、会議事項「(1) 岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成29年度の効果検証」について、ご報告させていただく。 《(1) 岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成29年度の効果検証について説明》
企画課長	それでは、ただ今の説明に対してご発言があればお願いしたい。
各委員	特になし

(2) 平成29年度地方創生推進交付金事業の効果検証について

企画課長	次に会議事項の「(2) 平成29年度地方創生交付金事業の効果検証」について説明させていただく。
企画課主幹	《諏訪圏6市町村によるSUWAブランド創造事業について説明》
企画課長	それでは、ただいまの説明に対してご意見があればお願いしたい。
会長	勉強不足でいけないが、小型ロケットの作成は目的であるのか、手段であるのか。いわゆる地域の技術を上げるために媒体としてロケットを使っているのか、あるいは逆に、ロケットを作って商業ベースのようなところへのせるのかどっちが主になるのか。
企画課主幹	まずこの、SUWAブランド創造事業の一番の目的は新規成長産業分野である航空ロケット分野にこの高度な技術を持つ諏訪地域の企業が少しでも多く参入していくことを位置づけている。そのためにはさらに技術力を高めなければいけないということで、その高めるためのツールとしてロケット開発、医療機器の開発に取り組んでいるというふうに捉えていた

企画課主幹	<p>だきたい。実際にロケットで商業ベースにのせて衛生を打ち上げていくとなると、まだまだ大きな課題があると担当課から聞いている。</p> <p>現在、企業で取り組んでいるロケットはエンジンの噴射の方式がハイブリット方式ということである。よく知られているスペースシャトルは液体燃料で飛んでいる。液体燃料の場合にはエンジンの構造が非常に複雑で制御が難しいといわれている。もう一つJAXAが取り組んでいるものでイプシロンというロケットがあり、これは固体燃料を使用している。構造が簡単で比較的安価である。この地域が取り組んでいるのはその両方を合わせたハイブリットロケットである。実用ベースになれば大変商業的にも注目されるロケットと伺っているが、まずは、これからの新規成長産業分野である、航空宇宙、ヘルス医療機器分野にこの地域の企業が一社でも多く参入していただくように、技術力を高めていただき、高付加価値な製品を作っていくとして行っているものである。</p>
会長	<p>地方創生推進交付金が7,000万となっているが、これはどこに入るのか。また、どこで使えるのか。</p>
企画課主幹	<p>こちらについては6市町村連携で行っているので6市町村の合計の金額になる。各市長村が事業費の1/2を負担し、残りの1/2が交付金となっている。6市町村の交付金の合計が7,000万となっており、これを使い、例えば、信州大学や諏訪圏ものづくり機構に委託を行い、ロケット開発の指導を受けたり、展示商談会を開催していただいたりしている。</p>
I 委員	<p>この事業はオンリーワンのものか、他にライバルはいるのか。成果を出さなければいけないところで。</p>
企画課長	<p>宇宙航空分野、ヘルス医療機器分野については、非常に多くの自治体に取り組んでいる。諏訪地域が行っていくにあたっては、こういうものを使って人材育成や、新たなものに取り組もうということを目的としているので、諏訪がトップというわけではない。</p>
I 委員	<p>可能性を秘めているということか。</p>
企画課長	<p>国では、地方創生推進交付金を使った事業の中ではトップ3であると、昨年、当時の特命大臣が見学に来ている。そういった位置づけになっている。</p>
A 委員	<p>全体評価について聞かせていただきたい。まず、これだけ多岐にわたる様々な項目を推進していることには敬意を表したい。KPIの指標のうち過半数が基準値を上回ったということで、皆さんの努力によるものだと思う。大卒の評価としては妥当ではないということでは無いと思うが、人口動態のデータを見ると転入が昨年よりも3人減って、転出が16人減り、結果として13人社会動態が減ったということになる。一番結果として得たい目標の一つとして人口の維持ということがあるかと思うので、この部分がどうなったかは非常に重要な部分になる。自然動態を食い止めるということは厳しい部分かと思うので、社会動態に着目するのは妥当だと思うが、この転出の中身について教えていただきたい。転出もいろんな理由がある。例えば、結婚を期に転出されたり、就職にあたって仕事を得るために転出したり、事情はあるかと思うが、転出の理由として、学生が大学進学にあたって転出するということがあるが、もし子どもの数が減る中でそ</p>

	<p>の数も減少しているのであれば、それは、事業をやった上での結果として社会動態が減ったという評価はしにくいと思う。単純に大卒の評価として妥当性というものが言えるかということにもなるので、どういう理由で転出が減っているのか教えていただきたい。</p>
<p>企画課長</p>	<p>転出の部分については、そこまで内容を精査できていない。ただ、傾向として岡谷市の場合、大学進学後の転出が多いと捉えている。結果的には20代から30代の方。大学の進学の際にはそのまま住民票をおいておき、就職のする時に就職先に住民票を移してしまうのではと分析しているが、29年度と28年度の差の部分については、まだ詳細まで分析できていない。</p> <p>子どもの減少によるのかという部分については、この年代ではまだ多くは減少してきていない。市のほうで心配しているのはここ数年。資料にもあるが、28年度の出生数が356人ということで300人台になってしまっている。かつては、500人程いたが、一気に下がってきている。この出生数という部分については、市としても大きく捉えている。今回検討いただいた、第5次岡谷市総合計画の中では「人」という部分について特に注力している。この出生数という部分については、行政だけでは難しく操作できる部分ではない。なんとか結婚のきっかけづくりをし、出産していただくとして取り組んでいるが、国の目指す出生数には程遠い。出生数も見据えながら、卒業後に住民票を移している学生の人達をこちらにもどすUターンに力を入れていきたい。それと同時に、岡谷市の子供だけではなく、IターンやJターンにも取り組んでいくということで第5次岡谷市総合計画の中にも取り入れる中で検討いただいた。</p>
<p>A委員</p>	<p>そうすると、産業の振興のデータの中に20代から30代の大学卒業後の人の転出を食い止めるということが一つの大きいテーマとして捉えているということだと思うので、そのへんのデータを管理しながら、指標としてみんなで見視が出来るようなKPIを作っていただければ思うのでよろしく願いたい。</p>
<p>D委員</p>	<p>出生率のところで気になったが、輝く子どもの育成戦略に関わることかと思うが、出生率と結婚された方の割合は特に見ていないのか。現在、不妊等のシビアな問題も多いので、結婚はしたが、子どもは望めなかったという方も多いと思う。単に結婚して出産という話ではなく、そこらへんのデータが見られれば、違う手を尽くすことができるのではと思った。その点はどうか。</p>
<p>企画課長</p>	<p>実際の夫婦間でどうかという細かい部分までは追いきれていない。ただ、人口ビジョンを作るにあたって調査した結果でいくと、結婚した方は2人から3人を希望しているが、現実には1人だという方が多い。今のお話にありました、ご事情で子どもが出来ないという方については、市、県のほうで補助金という形で不妊治療の手助けをさせていただいている。</p> <p>心配なのは、最近聞く話で、結婚するが、子どもはほらないという家庭がある。そういう方達の家庭への気持ちを醸成しながらでないとなかなか難しく、シビアな話でもあるので、出生率という問題は難しく、市でなんとか出来るという話でもない。市としては、子育て支援をしながら、子どもを産んでいただけるような取り組みをしていく。</p>
<p>会長</p>	<p>細かいことで申し訳ないが、避難行動要支援者の登録者の個別計画の作成率というのが59.6%で目標値が100%となっている。目標が100%とな</p>

	<p>るとその分子分母を知りたい。この項目で大切なのはパーセントではなくて中身であると思っている。どういう形で地域で活用するのか、また地域の体制づくりが大切であると思っている。自分達が一生懸命やってもなかなか難しい。目標があるのはいいとは思いますが、もし、大きく数字が乖離しているのであれば、それを理由に一步踏み込んで、市の考え方、地域に対して希望ということも。区に投げかけられると結構大変。区もよっぽど体制をしっかりとしないとできないと思っている。自分が民生委員をやっているので分かるが、結構難しいことである。実際問題どう生かしていくかはもう少しコンセンサスが必要であると思う。なのでもう1回確認の意味で分子分母の内容を確認したいと思う。</p>
<p>企画課長</p>	<p>基本的には災害時に自ら避難できない方を地区の皆様の力を借りて避難所まで誘導するというための位置づけになっている。寝たきりの方や障がいをお持ちで災害であると認識できない方、妊婦の方等がまずは対象になってくる。その中でも情報を出したくないというご家庭がまだあるようである。市のほうでもそういう方達から同意を得ないとお渡しできないということもある。区でも昼間いる方が高齢化し、もし災害が起きたとき避難所に避難する際にはほぼ高齢者ということで、対象者の把握が難しいということも聞いている。担当のほうにもどこまで区に担っていただかなければいけないかという話をしながら、対応させていただきたい。</p>
<p>I 委員</p>	<p>岡谷市の地方創生に対しては、第一次産業については全然視野に入れていない、取るに足りないことなのか。</p>
<p>企画課長</p>	<p>取るに足りないということではない。農業については数が少ないので、まずはメイン産業ということで工業を入れている。全体で言えば、策定の際にもみていただきましたが、農業の振興という分野もあるので力も入れている。特に移住という場合、都会の方は自然にあこがれてくる。なるべく畑をやりたいという方もいるので、応えられる範囲の中で、農地の中でも休耕している農地があるので、そういうところを開拓し、多くの方に借りていただけるよう、農業としては取り組んでいます。ただ、まち・ひと・しごと創生総合戦略という部分でいけば、基幹産業である工業ということで工業を押しまして、まち中の活性化ということで商業を出しているが、全体のまちづくりという観点で行けば農業を含んだ産業振興ということで取り組んでいるのでご理解をいただければ。</p> <p>その他よろしいか。それでは、続いて次の事業について説明させていただく。</p>
<p>企画課主幹</p>	<p>《「諏訪の国」ブランド展開と観光推進組織基盤創生事業について説明》</p>
<p>企画課長</p>	<p>それでは、ただいまの説明に対して、質問等あればお願いしたい。全体を通して、ご意見等あればお願いしたい。</p>
<p>○委員</p>	<p>全体に言えることだが、例えば、岡谷ブランドアクションプランの取り組みの件数で言えば、サイクリングステーションを作れば、5台のものでもやったことになるし、100台でもやったことになるので、やったことに対する奥行きに対して検証をする。また、31年度、32年度にかけてブラッシュアップを今後行っていくということか。</p>

企画課長	内容を変更して、新たな計画に切り変わるという解釈になる。
○委員	その際のK P Iについて奥行き、全体がわかるような、1つのことに対してどのくらい行ったのかそういうことがもう少しわかれば数字がいきってくるのではないか。そういうことが全体を通してできればと考えている。
企画政策部長	委員さんのおっしゃる通りである。K P Iについてはなるべくわかるようにということで設定しているが、最後は人口減少に歯止めをかけたりと、結果としてそういったまちづくりにきていないといけないと思うので、単なる目標の数字ではなくて、中身が伴わないと繋がらないと思うので、しっかり精査しながら評価して次に繋げていきたい。
○委員	数字がでたことによってとてもわかりやすくなる。意見も言いやすく、議論しやすくなる。同じ 50 でも奥のふかい 50 と浅い 50 があるので、そこをバージョンアップしていただければ。全体を通して。
企画政策部長	ありがとうございます。
企画課長	その他よろしいか。 それでは、平成 29 年度の地方創生推進交付金事業については、総合戦略のK P I達成に有効であった、ということで、ご了解をいただきたいと思う。

(3) その他

企画課長	事務局からなにかあるか。
企画課主幹	皆様方にご審議いただいた、第5次岡谷市総合計画前期基本計画が4月1日よりスタートすることとなる。新年度の具体的な事務事業等につきましては、5月頃を目処に審議会を開催し、説明をさせていただきたいと思う。
企画課長	今、説明がございましたように、皆様にご審議いただいた計画に基づいた新規事業については5月ごろを目処にご報告をさせていただく。また、それまでに新たに作られた計画についてはお配りさせていただくのでよろしくおねがいしたい。 それでは、会議事項がすべて終了となる。熱心なご意見をいただきありがとうございました。 これもちまして、第9回基本構想審議会を終了といたします。大変お疲れさまでした。

4 閉会